

1	池谷・入山モデル作り事業
1－1	山清水米直販
・平成 27 年産米 山清水米の全生産者が新潟県の「特別栽培米」の認証を取得し、和日米会様の「限界集落プロジェクト（郷プロジェクト）」に 107 俵（6,420kg）、農民運動全国連合会に 35 俵（2,100kg）、飛渡の未来を創る会に 61.5 俵（3,690kg）を出荷しました。一般販売分としては、「山清水米」158.5 俵（9515.2kg）、「超特選 農薬・化学肥料不使用『山清水米』はざ架け米」（以下はざ架け米）12.5 俵（752.25kg）を出荷しました。 ・平成 28 年産米 和日米会様に 100 俵（6,000kg）、飛渡の未来を創る会に 345 俵（20,700kg）出荷しました。一般販売分としては 3 月末時点の発送済と予約分で 87.8 俵（5268.6kg）、はざ架け米 10.3 俵（622kg）の販売量となっています。 ※特別栽培米…化学合成農薬および化学肥料の窒素成分を慣行レベルの 5 割以上削減して生産したお米。	
1－2	農業生産
2016 年度は、株式会社とびたりから新たに 1 町歩（約 1ha）を借り受けて、継続の 1 町歩と合わせ 2 町歩の田んぼを耕作することとなりました。前年の冬は雪が少なかったことから、春先の水管理を村の方々から心配されながらも、何とか収穫にこぎつけました。ただ、面積が倍になり、思うように作業がはかどらず、収量はいま一つとなりました。 また、村の方々と話し合いをし集落内に「米乾燥共同施設」（ライスセンター）を建てようという動きとなり、建物や機械の見積もりや設計図の作成など準備を進めました。助成金を使い、2018 年度に着工を目指しています。 さらに、法人として認定農業者となりました。 昨年度につづき、ポップコーンの栽培も行い、約 51kg 収穫しました。農薬化学肥料不使用の自家製ポップコーンとして、市内各地のイベントに出店し、認知度もあがってきました。	
1－3	加工品販売
2016 年度は、既存の商品で売れ行きの良いものにラインナップを絞り込み、商品の集中と選択を行いました。野菜がゆ・豚角煮大根については製造終了、山菜炊き込みご飯の素も現在の在庫をもって製造終了、大口注文時のみの受注生産品とした一方、主力の白がゆは、従来の個食用（250g）に加え、業務用の 1kg パックを商品に追加しました。 白がゆ 250g は、既存の東京・兵庫の神社への販売に加え、京都の神社への販売も受注。新商品の白がゆ 1kg パックは、県内デイサービスに業務用として年間注文を受注しました。大手メーカーの大量生産品とは異なる希少商品であること、業務用の 1kg パックも販売していることなど、「山清水米白がゆ」だけの特色を生かし販路拡大を試みていきます。	
1－4	体験交流
2016 年度は計 9 回のイベントを開催し、のべ参加人数は 355 名となりました。また、交流人口は 882 名でした。 ・池谷の山菜を楽しみ尽くす会！	

昨年に続き、日帰りのイベントとして開催いたしました。首都圏や新潟市方面から大勢の方にご参加いただき、村人と一緒に山菜採りと山菜料理を楽しみました。

・料理イベント

初の試みとして、東京在住の栄養士の方にご協力いただき、東京で十日町を知って・食べて・学ぶ料理イベントを開催しました。今までつながりはなかったけれど、十日町に興味のある首都圏の方がご参加くださり、新しいつながりを生むことができました。イベントでは、十日町の旬の食材と山清水米を楽しんでいただきました。

・田んぼへ行こう！

6月に飛渡地区の田んぼアートの田植え、10月に農薬・化学肥料不使用のはざかけ米の稲刈り・はざかけを行いました。また、株式会社 YELL (エール) とコラボし、同社が経営する市内のレストラン「ALE beer&pizza」の料理をふるまっていたいただき、大変好評でした。

・やまんなかマルシェ in いけたに

昨年度に続き、池谷分校でマルシェを行いました。市内外から飲食店や雑貨店など 14 店舗に出店いただきました。当日はあいにくの雨でしたが、昨年同様約 150 人のお客様に来ていただきました。続けることによって、徐々にイベントや池谷集落の認知度があがってきたと思います。

※マルシェ・・・フランス語で「市場」

・ありがとうの会

東京・神田で支援者の方に来ていただき、開催しました。当日はゲームをしたり意見交換をしたり、池谷集落から持参した食材で作った料理を食べたりして、支援者の皆様と交流し、絆を深めることができました。

・収穫祭

「わかもの×コラボ＝地域力創造作戦会議」と銘打ち、十日町市内で活躍する若手 4 名の方に来ていただき、パネルディスカッションを行いました。市内外から幅広い方にご参加いただき、十日町市の活性化について活発に意見交換がされました。その後の懇親会も多いに盛り上がりしました。

・池谷雪かき道場・雪国でかまくらを作って呑む会

昨年度から「越後雪かき道場」を主催する NPO 法人中越防災フロンティア様からのれん分けをいただき、「池谷雪かき道場」として独自で開催しています。初級ではかんじきやスノーダンプの指導、中級では安全帯を使用しての命綱講習を行いました。

また、かまくらのイベントでは、池谷集落の隣の轟木集落からかまくらづくり指導に来ていただき、20 人ほどが入れる大きなかまくらを作って、その中で交流を深めました。

1 - 5	インターン受入
-------	---------

公益社団法人中越防災安全推進機構が運営するインターンシップ制度「にいがたイナカレッジ」のインターン生として、愛知県出身の森孝寿（たかひさ）さんが、4 月 20 日から 1 年間のインターンを行いました。

主に農業に従事いただき、整体師の資格をいかして飛渡の未来を創る会のウェルネスツーリズムの企画・運営にも取り組みました。

インターンシップ終了後は、池谷分校から農業研修生向け住宅「めぶき」に居を移し、池谷集落に定住しました。当法人の農業の手伝いや、地元の醸造会社でアルバイトをしています。

2	地域おこし応援事業
2-1	視察・講演・研修会
・視察 十日町市内、新潟県内・県外から 19 団体 303 名の方にお越し頂きました。 ・講演・研修会 47 会場に訪れ、3593 名の方に聞いて頂きました。講演を聞いた方から個別に新たな依頼を頂くようにもなり、地域おこしのモデルを全国各地に広めていくという事が少しずつ形になってきています。	
2-2	地域おこし応援活動
新潟県内の地域づくりに関する意見交換会に年間を通じて 4 回参加し、県内の中間支援組織や行政職員の方々と今後の地域づくりに関しての方向性を一緒に検討しました。具体的な動きは平成 29 年度から開始する事になりました。 群馬県下仁田町で地域おこし協力隊のアドバイザー事業を行い、行政・地域の関係者・地域おこし協力隊員が前向きに取り組むための支援を行いました。 2016 年度にビジョン作りの支援をした飛渡地区のビジョン実現に向けた取り組みについて支援を行い、お米を沖縄に 1000 俵以上出荷するという取り組みも形になりました。	
2-3	十日町市への移住促進
・移住相談会の開催・協力 新潟県十日町地域振興局からの委託を受け、11 月に 1 回、2 月に 2 回、合計 3 回「ツマ리카フェ」を開催しました。そのうち 2 回は東京の「表参道・新潟館ネスパス」で開催しました。残りの 1 回は「農家民宿茅屋や」で豪雪体験という形で現地を見てもらう形で開催しました。 また、3 月に飛渡地区で開催された「人に会いに行くツアー」で池谷集会場を会場として貸出し、トークセッションを行い、そりすべり体験も行いました。 平成 27 年度にツマ리카フェに参加した方が 1 家族十日町市に移住してくる等、徐々に成果にも結び付いてきています。 ・さとナビ（移住希望者向け情報サイト）の運営 昨年度に続き、十日町市への移住・交流情報を掲載したホームページ「さとナビ」の運営を行いました。さとナビ：http://www.tsukurou-tokamachi.jp/ ・インターンシップ受入 十日町市内各地にインターンシップ受入のコーディネートを行いました。 短期インターンでは、新しい受入地域の発掘に力をいれ、「東下組の復興と将来を考える会」、「有限会社ワカイ測量」、「株式会社あいポート仙田」、「株式会社ジャパンコンシェルジュ」の 4 団体が新たにインターンシップ受入先地域となり、より幅広いインターンシップメニューを提供できるようになりました。 インターン生たちは農作業や古民家再生、加工品製造、地域のカフェ・直売所・観光案内所の運営のお手伝いなどを経験し、「さとナビ」で情報発信を行いました。また、初めて海外（台湾）からのインターン生を受け入れました。 【受入地域・団体（計 10 か所）】 十日町地域・・・池谷集落、食と農を考える飛渡の会、東下組の復興と将来を考える会	

川西地域・・・千年の市じろばた、仙田地区、あいポート仙田

松代地域・・・竹所集落、ワカイ測量

松之山地域・・・中立山集落、ジャパンコンシェルジュ

【受入人数】

長期 4名、短期 9名、合計 13名

このうち4名が、インターンシップ終了後も十日町市内に住み続けています。

3 地域復興支援員設置事業

前年度に引き続き、十日町市役所との連携事業「地域復興支援員設置事業（通称：里山プロジェクト）」として、十日町市内全域の中山間地支援を幅広く行いました。

・地産地消推進事業（農業生産基盤保全事業）

農業生産者の活動支援として、下記農業生産者を支援いたしました。

地区生産者（東下組地区、白倉地区）、下条高原の棚田を守る会、松代出張販売実行委員会、さるなし研究会、松之山直売所を盛り上げる会、千年の市じろばた、芝峠温泉雲海への出荷者、農事組合法人ナレーニ川手

学校給食における地産地消及び食育の推進として、学校給食地産地消推進委員会に出席したり、生産者団体「松之山学校給食の会」「まつだい地産地消の会」「深雪の里ファーム」「じろばた」「食と農を考える飛渡の会」「東下組さわらび学校給食の会」への実情調査と課題点の抽出を行い、行政との情報交換や助言をしました。また、学校給食出荷に関する現場での支援活動も行いました。

・移住・交流及び外部人材活用事業

○移住・定住支援

「千年の市じろばた」に入ったインターン生のフォローや集落交流支援などを行いました。

○体験交流推進事業

都市との体験交流及びインバウンド事業の企画・実施を行いました。

・世田谷ジュニアリーダースクールの受入

・「越後田舎体験事業」開拓の支援

・「下条高原の棚田を守る会」活動支援

・・・草刈りボランティア（「棚田の草刈り隊」、棚田オーナー型プログラム（「おらたちの田んぼ」）の支援

○外部人材の活用支援

十日町市内の地域おこし協力隊向け研修開催や全体会議でのアドバイス、定期的な現地での3者会議（行政担当者・地域の世話人・地域おこし協力隊員）開催支援等を行いました。また、地域おこし協力隊の受入世話人同士の情報交換会の開催も行いました。

○担い手及び後継団体の育成

「道の駅瀬替えの郷せんだ」に対してインターン生の配置導入に向けた支援を行いました。

・集落活動維持事業

大白倉集落で「大白倉集落活性化協議会」の立ち上げ支援を行い、伝統行事「バイトウ」の開催支援を行いました。

松代地区で、「松代ゲートボール協会」の大会運営支援や「まつだい歩こう会」のイベント開催や林道

整備の支援、「やぶこざきの会」での交流事業やパワーアップ事業の支援を行いました。

また、高齢者福祉の支援として、社会福祉協議会と連携した高齢者体操教室（地域サロン）開催支援やパソコン教室を通じた集落住民の集まる場づくり支援も行いました。

4	管理部門
---	------

4-1	メディア掲載
-----	--------

・新聞

2016 年 7 月 妻有新聞、上越タイムス 1 月 農業共済新聞 など

・テレビ

2016 年 6 月 BS-TBS「美しい日本に出会う旅」、NHK BS「cool japan」

・雑誌他

2016 年 5 月 ノジュール 12 月 魚沼へ冬号 ポプラ社「ぼくらは地方で幸せを見つける」（指出一正著）